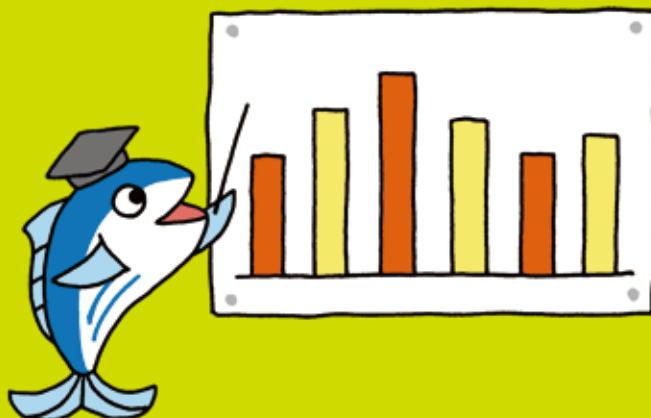


## 第2章

# 基本構想

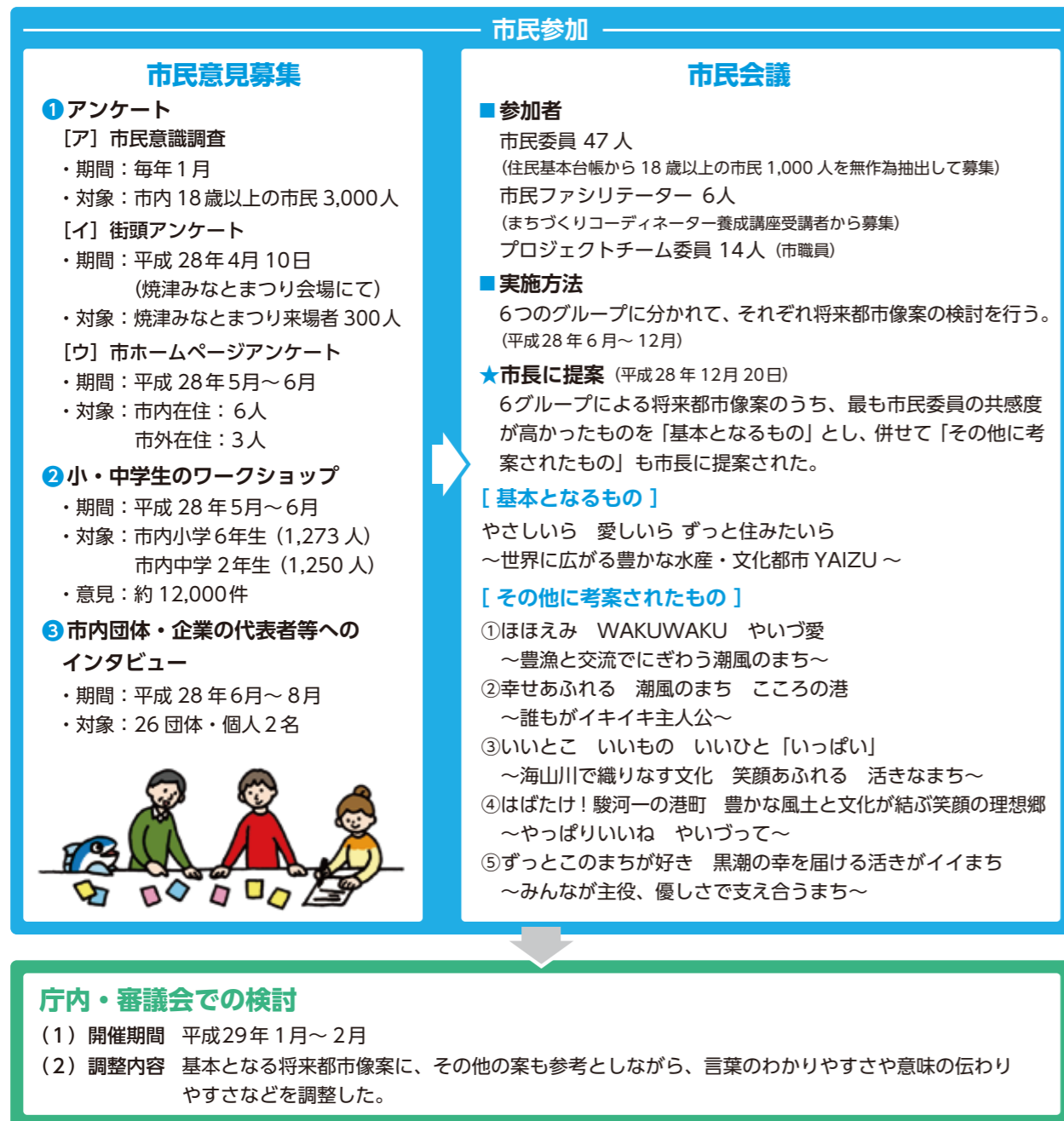


## 第1節 将来都市像

### 1 将来都市像の誕生までの軌跡

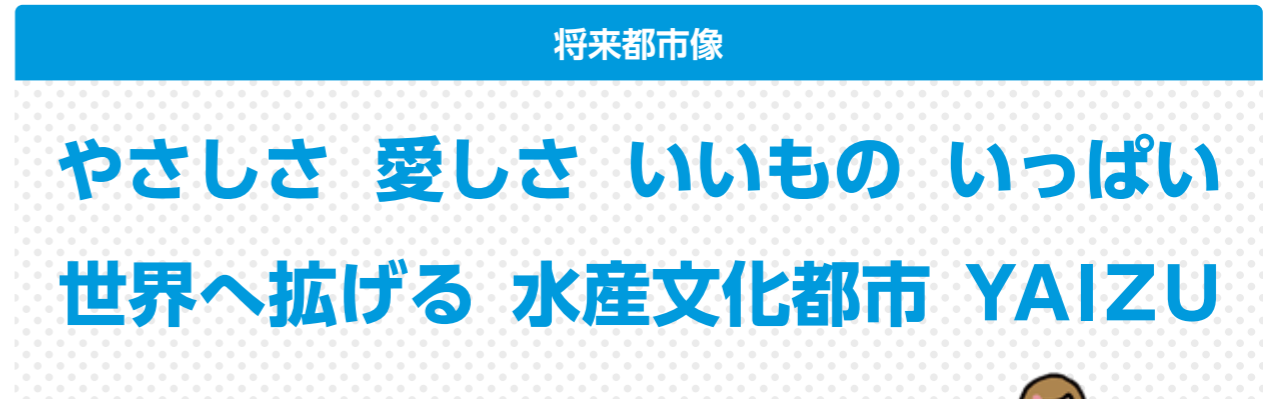
第6次焼津市総合計画の将来都市像は、未来の焼津市がこんなまちになったらいい、そんな「希望的な未来」、人口減少、少子・高齢化という、すでに起こっている「現実的な未来」、現在世界中で起きている様々な先駆的な事象から未来の変化を読む「潜在的な未来」を掛け合わせて市が将来目指すべき都市の姿を検討したものです。

そして、将来都市像は、多くの市民の皆様のまちづくりの思いや希望をのせた意見を集約し、47名の市民会議委員が延べ8回もの会議を行って市民会議の将来都市像案を生み出し、これを基に、審議会の中間意見や庁内での検討を経て誕生しました。



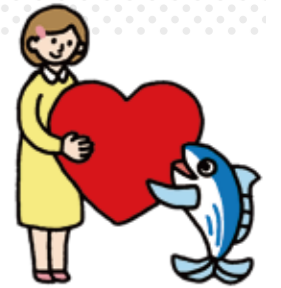
### 2 将来都市像

第6次焼津市総合計画の将来都市像を次のとおり定めます。



#### 将来都市像に込められている思い

- ▶ 市民がともに支え合いながら、安全で安心して暮らせる、誰にも、地球にも『やさしい』まちを目指します。
- ▶ 「焼津を忘れない気持ち」、「焼津への郷土愛」、「焼津を好きな気持ち」を『はぐくむ』・『つなげる』まちを目指します。
- ▶ 「水産業を起点に発展した文化」を大事につなぎ(継承し)ながら、焼津の軸となる水産を始め、豊富な地域資源を『活かし』、時代に合った新たな産業やにぎわいを創造し、地域として成長していきます。
- ▶ 市民、事業者、行政がともに、市内外から広くは世界へ「水産文化都市 YAIZU」を発信し、人・モノ・情報が交流することで、「住み続けたい、住んでみたい、行ってみたいまち」をつかっていきます。



「将来都市像」は市民参加でつくりました。



## 第2節 まちづくりの基本理念

まちづくりの基本理念は、「焼津市民憲章」「焼津市自治基本条例<sup>\*</sup>」を踏まえ、次のとおり定めます。

### 地域資源や特性を “いかす”

自然と共生しながら、恵まれた地域資源、地理的特性を市民の活力とともに「いかす」まちづくりを進めます。

### みんなに、地球に “やさしい”

市民が共に支えあいながら、安全で安心して暮らせる、誰にも、また、地球にも「やさしい」まちづくりを進めます。

### 市民の力を “はぐくむ”

新しい時代を担い、健康で個性豊かな感性あふれる人づくりや市民と行政との協働の原動力となる市民が自ら行おうとする力を「はぐくむ」まちづくりを進めます。

### 人と未来に “つなげる”

環境、文化、伝統、平和の尊さと恵まれた地域資源を次世代に引き継ぎ、市内外へ情報発信することにより、人と人、過去・現在・未来と世界を「つなげる」まちづくりを進めます。

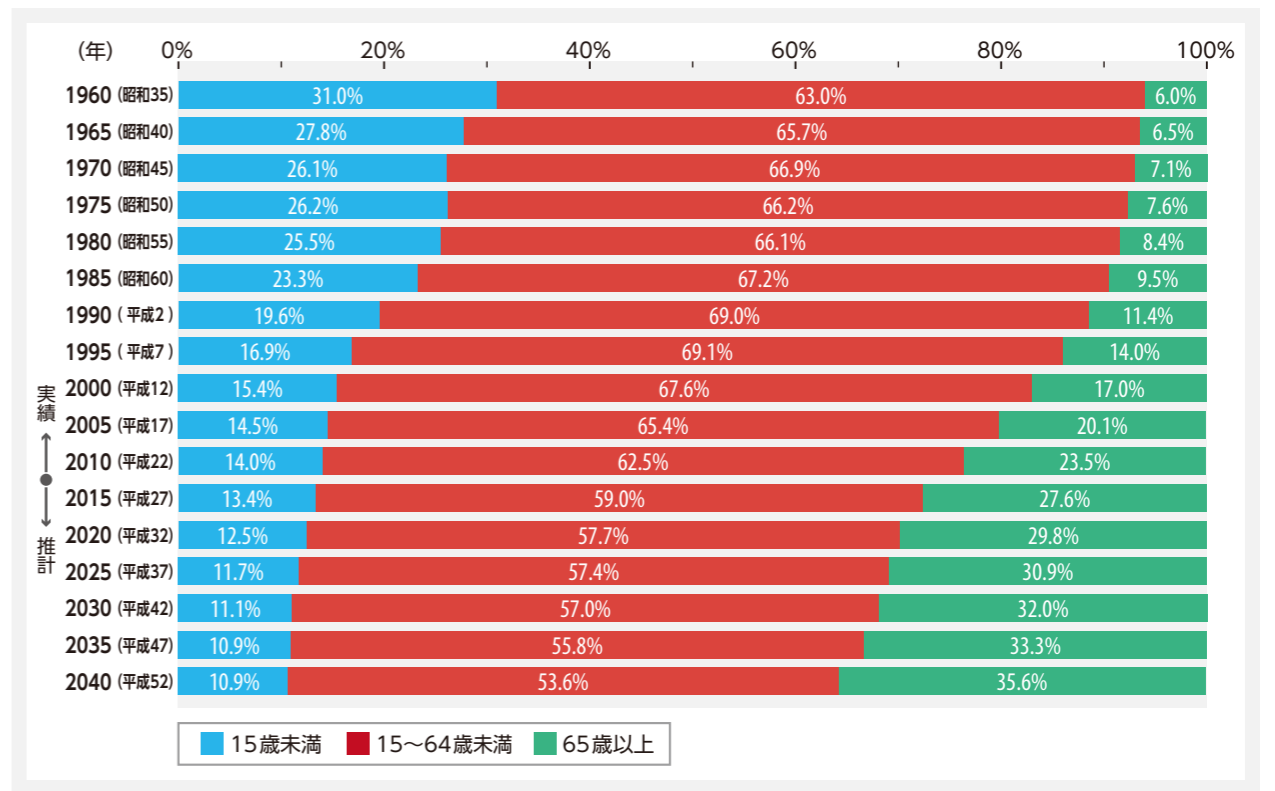
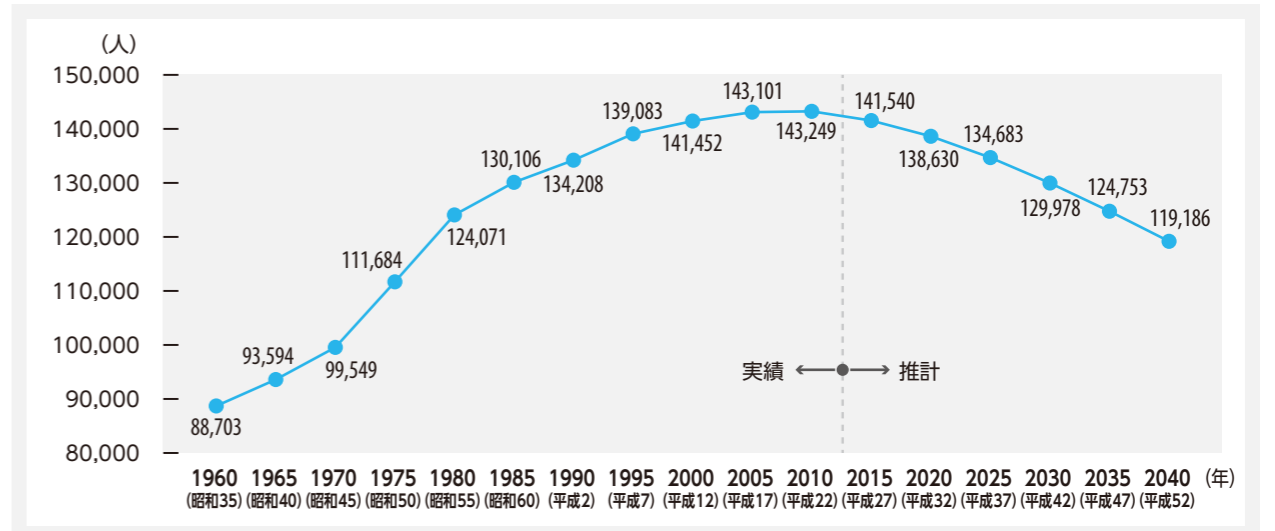


## 第3節 将来人口の目標

### 1 将来推計人口

平成25年3月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「将来推計人口」によると、本市の総人口は、2040年（平成52年）には119,186人となること推計されています。

高齢化率は、2040年（平成52年）には35.6%となり、現在の4人に1人の割合から3人に1人を上回る割合となること推計されています。



## 2 将来目標人口

本計画における将来人口については、焼津未来創生総合戦略\*で掲げた目標とします。

2020年の総人口

**140,000人**

(社人研推計 +1,300人)

2040年の総人口

**128,000人**

(社人研推計 +9,000人)

2060年の総人口

**12万人程度を目指す**

(社人研推計 +25,000人)

### 目標人口

